



全国学力・学習状況調査の結果と分析

令和7年度の全国学力・学習状況調査（4月17日実施）の結果等をお知らせいたします。

（1）結果 正答率（%） R7年度は2年ぶりに全国平均を下回りました

	国語	数学
全国平均	54.3%	48.3%
三重県平均	53% (▼1.3)	47% (▼1.3)
鈴鹿市平均	53% (▼1.3)	45% (▼3.3)

（2）3学年の経年変化

＜HP掲載版は公表を差し控えます＞

（3）家庭学習（生徒質問紙より）

○学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）【1時間以上】の回答割合

全国	大木中	全国との差
61.6%	35.2%	▼26.4

○土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）【1時間以上】の回答割合

全国	大木中	全国との差
57.9%	23.1%	▼34.8

家庭学習等にかかる時間が非常に少ない→学習時間を増やす必要あり！

（4）今、求められる力（生徒質問紙より肯定的回答割合<%>）太字は全国平均より上

	生徒質問紙から	全国	大木中
主体的な学び	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	77.7	71.5
対話的な学び	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり新たな考え方に気付いたりすることができている	84.7	79.2
深い学び	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思う	74.8	51.6
個別最適な学び	授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間になっていた	79.3	64.7
協働的な学び	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる	91.9	94.5
学びのアウトプット	授業では、各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた	70.6	56.1

(5) 非認知能力について（質問紙より否定的回答の割合<%>）

	生徒質問紙から	全国	大木中
やり抜く力	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	22.0	35.2
自制心	学級活における学級での話し合いを生かして、今、自分がすべきことを決めて取り組んでいる	22.0	39.6
自己肯定感	自分には、よいところがあると思う	13.7	20.9
社会性	人が困っているときは、進んで助けている	8.7	11.0

(6) 総合的な成果と課題（○：成果、▲課題）

<国語>

△文章と図の関係をとらえる問題が高かった。文章と図の関係性について読み取ることができる生徒が多かった。

▼普段からひらがな使いをしている漢字がしっかり書けていない。記述問題では、条件が複数あり、その条件をすべてを満たして書くことができない生徒が多い。

<数学>

△具体的な数や場面について考察する力は比較的身に付いていると考える。

▼15問中13問において全国の平均を下回っている。また、記述問題の5問中4問において、無解答率が高かった

<質問紙>

△授業や学校生活で友人や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題解決に取り組む生徒が多い（94.5%）

▼家庭学習時間（1時間以上）が、非常に少ない状態である。（平日35.2%全国比-26.4%、土日等23.1%全国比-34.8%）

(7) 課題改善に向けた具体的な取り組み

- ・特定の領域や問題形式ではなく、自ら学習に向かう姿勢と、基礎基本を身に付けさせることが最重要課題であると考え。
- ・授業では生徒それぞれが自分の理解度やペースに合わせて、達成しようとする個人の目標（めあて）を設定し、個別または協働で学習を進められるようにする。
- ・授業等の学習達成度を自分で確認しながら次の学習につなげられるようにする。
- ・アウトプットの機会を大事にして教科書を中心に理解したことをノートにまとめさせたり、小单元ごとに自分の学び方も含めて振り返りの記述をさせたりする。
- ・進路選択に向けた課題や授業との連結させた課題を出すことで家庭学習の定着を図る。
- ・鈴鹿市の授業向上のための5つの視点（授業力UP 5★ ver. 2）を活用して、全ての子どもたちが主役の授業の実現をめざす。
- ・受験に向けて、弱みや授業と連結させた課題を出すことで、家庭での学習習慣をつけていく。また生徒に課題設定をさせるなど、生徒が主役の授業を行っていくことで、生徒の学びへの好奇心などを育み、主体性を伸ばしていく。
- ・9年間の義務教育期間を「小中一貫教育」と捉えて、各学校の強み・弱みを共有・情報交流を行い、「授業改善・学習改善・生活改善」を保護者・地域と協働して取り組んでいく。

以上となります。